

第4章 目指すべき将来の札幌の姿

1 目指すべき将来の札幌の姿

札幌市は、「環境首都・札幌」を目指して、率先してさまざまな地球温暖化対策に取り組んできました。

しかしながら、福島第一原子力発電所の事故により、日本におけるエネルギー政策はさまざまな議論の中で未だ先行きの見えない状況にあり、これと関連の深い地球温暖化対策においても同様の状況にあります。

このような中、北国を代表する大都市である札幌市には、その地域特性を踏まえた温暖化対策をこれまで以上に先導的に進めていくことが求められています。

「第3章（1）本計画の目的と位置づけ」でも示したとおり、低炭素社会の実現に向けた温暖化対策を推進するための計画としての位置づけを踏まえ、本計画における目指すべき将来の札幌の姿として、「世界に誇れる持続可能な低炭素社会『環境首都・札幌』」を掲げました。

【目指すべき将来の札幌の姿】 「世界に誇れる持続可能な低炭素社会『環境首都・札幌』」

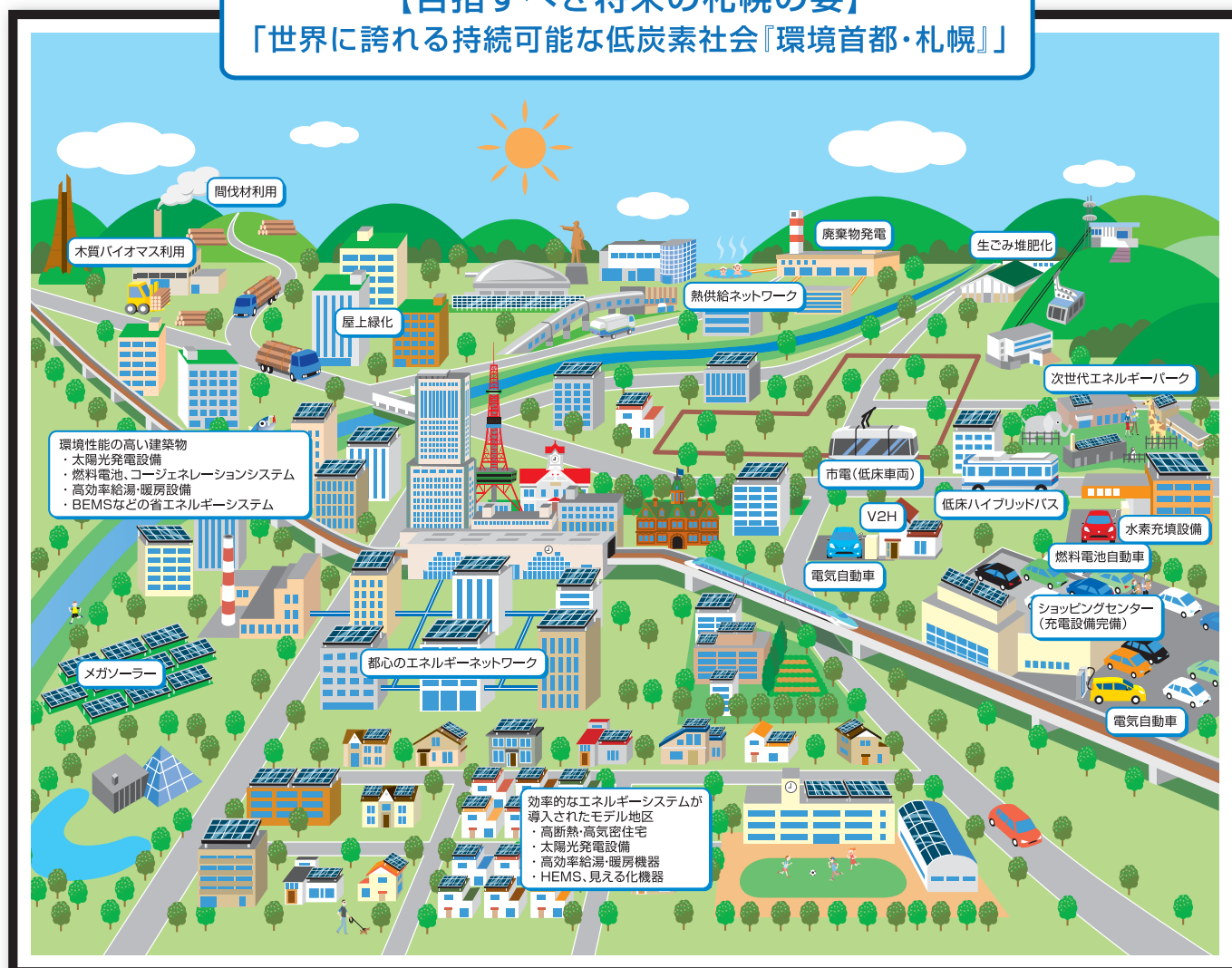


図26 目指すべき将来の札幌のイメージ

2 低炭素社会の実現に向けて目指すべき社会像

「世界に誇れる持続可能な低炭素社会『環境首都・札幌』」を実現した社会とはどのような状態なのか、本計画に基づき温暖化対策を推進するにあたって、具体的なイメージを共有するため、「低炭素社会の実現に向けて目指すべき社会像(以下、社会像)」を設定しました。

この社会像は、地球温暖化対策の推進に関する法律第20条の3第3項において、「地方公共団体実行計画には、区域の自然的社会的条件に応じて温室効果ガスの排出の抑制等を行うための施策に関する事項を定めるものとする」と規定されていることを踏まえ、より実効性のある温暖化対策を推進するため、「第2章 2 (2) 札幌の温室効果ガス排出量の内訳」で示している二酸化炭素の排出部門に準じて分類しています。(表6参照)

表6 温室効果ガスの排出抑制等を行うための施策に関する事項及びそれに対応する社会像

区域の温室効果ガスの排出の抑制等を行うための施策に関する事項	低炭素社会の実現に向けて目指すべき社会像
その区域の事業者又は住民が温室効果ガスの排出の抑制等に関して行う活動の促進に関する事項 ・家庭に関する施策 ・工場、事務所、店舗などに関する施策	《家庭》 札幌型スマートライフ³⁸スタイルが定着している社会 《産業・業務》 環境保全と経済成長が両立している社会
公共交通機関の利用者の利便の増進、都市における緑地の保全及び緑化の推進その他の温室効果ガスの排出の抑制等に資する地域環境の整備及び改善に関する事項 ・自動車、鉄道、飛行機などに関する施策 ・森林保全、木質バイオマスに関する施策	《運輸》 環境に優しい交通体系が確立している社会 《みどり》 豊かなみどりと共生している社会
その区域内における廃棄物等の発生の抑制の促進その他の循環型社会の形成に関する事項 ・ごみの減量、リサイクルに関する施策	《廃棄物》 ごみの少ない資源循環型社会
太陽光、風力その他の化石燃料以外のエネルギーであって、その区域の自然的条件に適したものの利用の促進に関する事項 ・エネルギーの創出に関する施策	《エネルギー》 エネルギーの創出と面的利用³⁹が進んでいる社会

38 【スマートライフ】無駄な部分や余計な部分がなく、洗練されている生活・暮らしなどを意味する表現。

39 【エネルギーの面的利用】地区・街区レベルの複数の建物でエネルギーを効率的に利用することにより、地区全体のエネルギー消費量を削減すること。スケールメリットを活かした高効率な設備の導入や、エネルギー利用に時間差がある複数の建物でのエネルギーの融通、蓄熱・蓄電システムなどによるエネルギー利用の平準化などを図ることで、設備の能力を充分に活用した効率的な運転を行うことができる。

3 社会像の実現に向けた施策

(1) 社会像の実現に向けた施策推進の観点

社会像の実現に向けて、市民、事業者、札幌市が一体となって、より効果的に温暖化対策を推進するためには、市民、事業者の地球温暖化問題に対する関心を高め、取組の実践・定着を働きかけていくことが不可欠です。

本計画では、温暖化対策を実施することにより、温室効果ガスの削減に加えて、省エネや節電による「光熱費の削減」や、快適な住宅の選択による「住環境改善」など、同時にさまざまなメリットが得られることを踏まえ、これらメリットを各社会像の実現に向けた施策推進に必要な観点として具体的に提示することで、市民、事業者に温暖化対策の実践を働きかけていきます(図27参照)。

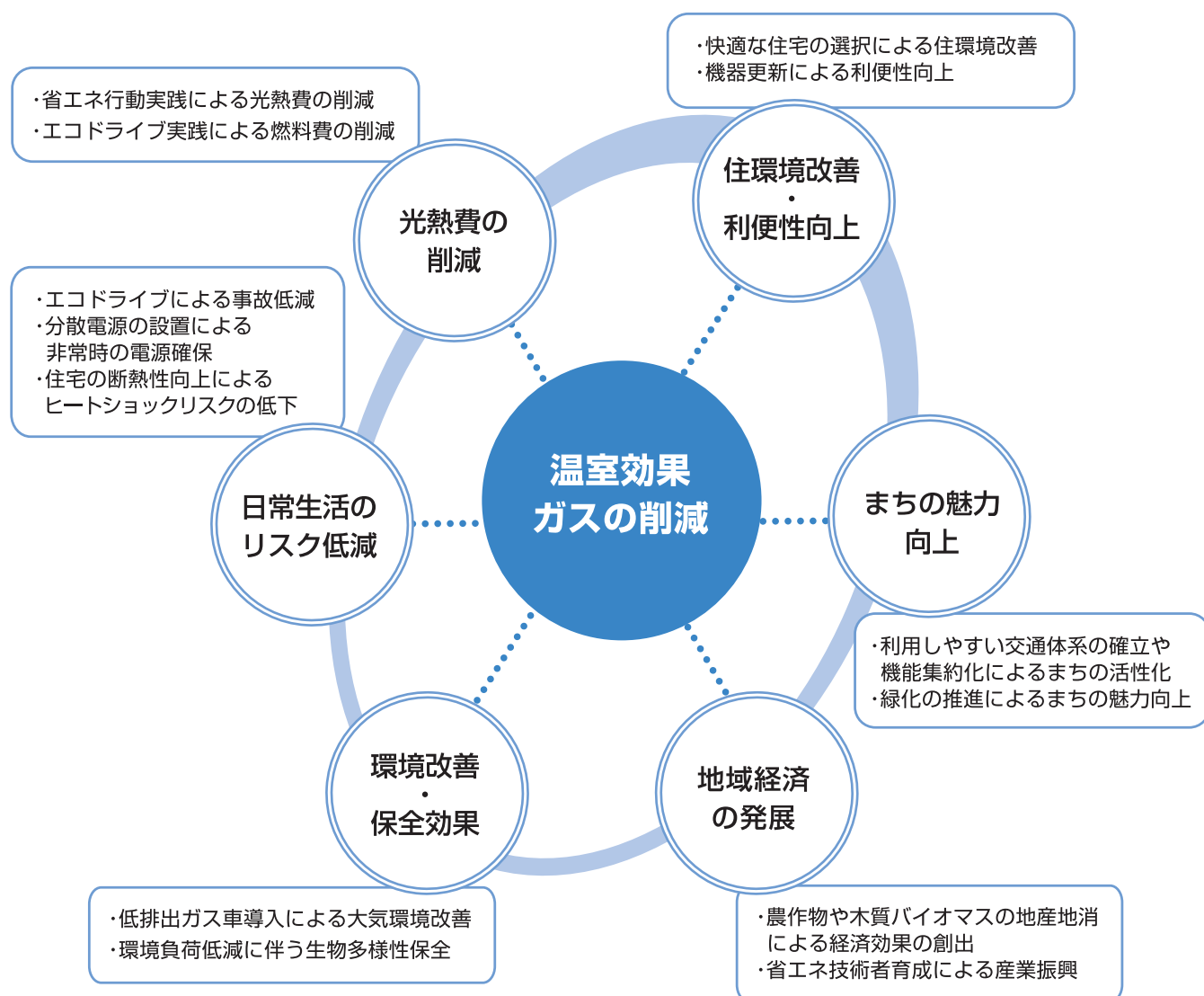


図27 社会像の実現に向けた施策推進の観点と具体例

(2) 社会像の実現に向けた具体的な施策

「第2章 2 旧計画の総括」や札幌の地域特性に加え、旧計画である札幌市温暖化対策推進ビジョンや、札幌市エネルギービジョンの施策を踏まえ、以下のとおり各社会像の実現に向けて効果の高い施策を掲げました。

また、施策ごとに関連する「第4章 3 (1) 社会像の実現に向けた施策推進の観点」とともに、目指すまちの姿のイメージを示しました。

《家庭》札幌型スマートライフスタイルが定着している社会

高断熱・高気密住宅の普及

住環境改善・
利便性向上

日常生活の
リスク低減

光熱費の
削減

住宅の省エネ性能の見える化⁴⁰が進み、積雪寒冷地である札幌でも快適で暮らしやすく、環境負荷が低い住宅が選択され、まちに普及しています。

省エネ・再エネ機器の普及

住環境改善・
利便性向上

日常生活の
リスク低減

光熱費の
削減

高効率給湯・暖房機器や省エネ家電、太陽光発電などの普及により、冬期間にエネルギー消費量が多い積雪寒冷地である札幌でも効率的にエネルギーが利用されています。

省エネ行動の実践

光熱費の
削減

住宅におけるエネルギー消費量の見える化などを通じて、無駄のない賢いエネルギーの使い方が実践され、スマートなライフスタイルが定着しています。

《産業・業務》環境保全と経済成長が両立している社会

省エネ・再エネ設備の普及

住環境改善・
利便性向上

日常生活の
リスク低減

光熱費の
削減

オフィスの低炭素化や工場の環境性能向上、機器の使用方法の見直しや高効率給湯・暖房機器の導入などによって、事業活動におけるエネルギー消費量が低減されています。

省エネ行動の実践

光熱費の
削減

設備の運用改善により環境負荷が低減するとともに、地域社会の豊かな環境維持と社会の継続的な発展に企業自ら取り組むなど、環境保全意識のさらなる醸成が図られています。

環境産業の振興と人材育成

地域経済の
発展

技術開発に対する支援を通じて、環境関連技術の実用化・事業化へと繋がっています。

40【見える化】住宅の省エネ性能をラベルで表示したり、企業や家庭で消費している電力量などを計測し、その結果をパソコンなどに分かりやすく表示したりすること。

《運輸》 環境に優しい交通体系が確立している社会

次世代自動車の導入

環境改善・
保全効果

光熱費の
削減

燃料電池自動車⁴¹や電気自動車⁴²をはじめとした、より二酸化炭素排出の少ない自動車への乗り換えが進んでいます。

エコドライブの推進

日常生活の
リスク低減

光熱費の
削減

エコドライブの浸透によって、自動車による環境負荷の少ないまちになっています。

公共交通の利用促進

まちの魅力
向上

住環境改善・
利便性向上

利便性の向上により、公共交通機関の利用促進が図られています。

《みどり》 豊かなみどりと共生している社会

みどりの保全

環境改善・
保全効果

森林が健全に保たれ、自然が身近に感じられるまちづくりが進んでいます。

みどりの創出

環境改善・
保全効果

まちの魅力
向上

多様なみどりが創出されるなど、環境に配慮した取組が推進されています。

みどりの活用

環境改善・
保全効果

地域経済の
発展

ペレットストーブ⁴³などの普及により、木質バイオマス⁴⁴の地産地消⁴⁵が進んでいます。

41 【燃料電池自動車】 燃料電池で水素と酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーを使って、モーターを回して走る自動車のこと。水素と空気中の酸素を燃料とするため、走行時には水しか排出しないことが特徴。

42 【電気自動車】 電気エネルギーで走る自動車のこと。走行時には排気ガスを出さず、騒音も少ない。

43 【ペレットストーブ】 おがくず、かんなくすなどの製材副産物や間伐材などを原料に、圧縮・成型した小粒の固形燃料であるペレットを使用するストーブのこと。

44 【木質バイオマス】 化石燃料を除く、生物由来の有機性資源のうち、木材からなるチップやおがくすなどの生物資源のこと。

45 【地産地消】 地域で生産された農産物や水産品などをその地域で消費すること。

《廃棄物》ごみの少ない資源循環型社会

ごみの減量・リサイクル促進

環境改善・
保全効果

光熱費の
削減

積極的にごみの減量・リサイクルが行われている資源循環型のまちになっています。

廃棄物発電・熱利用の推進

日常生活の
リスク低減

廃棄物発電⁴⁶・熱利用により、ごみ焼却時に発生するエネルギーを有効活用しています。

《エネルギー》エネルギーの創出と面的利用が進んでいる社会

再エネ機器の普及・拡大

住環境改善・
利便性向上

光熱費の
削減

太陽光発電を中心とした再生可能エネルギー機器の普及拡大によって、エネルギーを自ら創り出せるまちになっています。

分散電源の普及・拡大

日常生活の
リスク低減

光熱費の
削減

家庭や事業所において、コージェネレーションシステム⁴⁷や燃料電池などの分散電源の導入が進み、災害に強いまちになっています。

エネルギーネットワークの強化

住環境改善・
利便性向上

まちの魅力
向上

日常生活の
リスク低減

都心部を中心として、エネルギーネットワーク⁴⁸の構築・利用が進んでいます。

46 【廃棄物発電】 廃棄物を処理する際に生じる熱エネルギーを利用して発電すること。

47 【コージェネレーションシステム】 電力と熱を生産し、供給するシステムの総称。「熱電併給」とも呼ばれる。

48 【エネルギーネットワーク】 ここでは、地域熱供給の熱導管や電力網をネットワーク状に整備し、通信技術を用いて効率的なエネルギー利用を図るシステムのこと。

「目指すべき将来の札幌の姿」「低炭素社会の実現に向けて目指すべき社会像」「社会像の実現に向けた施策」を体系化すると図28のようになります。

社会像「エネルギーの創出と面的利用が進んでいる社会」の実現に向けた施策は、他の社会像の実現に向けた施策のうち、エネルギー関連の施策を集約したものです。



図28 本計画の体系